

酪農五ヶ年計画の結果について

小野 寺義 一

従来の酷使的労働農業から脱出し、合理的営農と生活を目標として私の場合葉煙草栽培と水田裏作に有機的に結びつけた酪農経営の実際について御報告申し上げます。

昭和二十二年、県から四カ月の仔牛を一頭借受け二十五年初産で牡を分産、牛乳は近くの牛乳屋へ販売していましたが、僅か三ヶ月にして断られ一斗近くの乳を大部分自家用としておりましたが、飲み切れず腐敗させたり致しておりました。その上翌年分産の際、子宮脱で親牛を倒して、二、三度と飼うまいかと思いましたが、しかし再び思い直し、細部に亘る酪農経営五ヶ年計画を立て、最初父に反対されたが漸く理解を得てその一カ月後生後七カ月の牝を購入いたしました。

私の父は葉煙草栽培にかけては管内で指折りの優良耕作者で耕作指導をしておりましたが、私は煙草の生育生理を検討してみると、これは朝夕に畑に入る必要がなく、牛は主として朝夕に手入その他をやるべきであることに着目し、さらに種々の栽培技

第三表 経営拡充の経過と飼料自給計画

区分	年次		第一年		第二年		第三年		第四年		第五年				
	飼料	飼料	飼料	飼料	飼料	飼料	飼料	飼料	飼料	飼料	飼料				
	(F)	(E)	(F)	(E)	(F)	(E)	(F)	(E)	(F)	(E)	(F)				
畜	鶏	耕馬	乳牛	仔牛	成牛	鶏	耕馬	乳牛	仔牛	成牛	鶏	耕馬	乳牛	仔牛	成牛
	数	必要F E	頭数	必要F E	頭数	数	必要F E	頭数	必要F E	頭数	数	必要F E	頭数	必要F E	頭数
家	五	二二二〇	一	四五〇	一	一〇	二二二〇	一	二二二〇	一	二二二〇	一	二二二〇	一	二二二〇
畜	三	二二二〇	一	四五〇	一	三	二二二〇	一	二二二〇	一	三	二二二〇	一	二二二〇	一
設	サイロ(数)	牛舎及堆肥舎	農機具	モーター	製粉機	吹カタ	全自動式	製繩機	脱穀機	牛舎増築	堆肥舎設備	牛舎設備	牛舎設備	堆肥舎設備	牛舎設備
施	二	三	二	二	二	二	二	二	二	三	三	三	三	三	三
入飼料	〇	二二五〇	〇	二二五〇	〇	〇	二二五〇	〇	二二五〇	〇	〇	二二五〇	〇	二二五〇	〇
自給飼料	〇	二二五〇	〇	二二五〇	〇	〇	二二五〇	〇	二二五〇	〇	〇	二二五〇	〇	二二五〇	〇
飼料	〇	二二五〇	〇	二二五〇	〇	〇	二二五〇	〇	二二五〇	〇	〇	二二五〇	〇	二二五〇	〇
(F)	〇	二二五〇	〇	二二五〇	〇	〇	二二五〇	〇	二二五〇	〇	〇	二二五〇	〇	二二五〇	〇
(E)	〇	二二五〇	〇	二二五〇	〇	〇	二二五〇	〇	二二五〇	〇	〇	二二五〇	〇	二二五〇	〇
計	〇	二二五〇	〇	二二五〇	〇	〇	二二五〇	〇	二二五〇	〇	〇	二二五〇	〇	二二五〇	〇

第二表 家族及び労働力

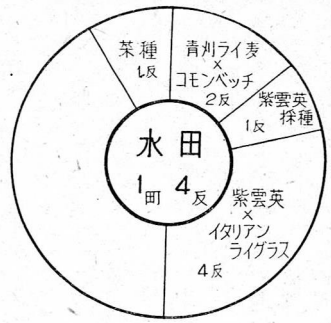
労働能力	父	母	私	妻	妹二人	弟一人	祖母	妹四人	子供二人	家族換算
年間稼働日数	四八	一〇七	三〇七	三〇六	四九七	四九七	〇	〇	〇	一四八
労働能力換算	四八	八五	三〇七	二四五	三九七	三九七	〇	〇	〇	一〇八三
備考	兼業	家事					老齡	小・中	幼児	建築業

第一表 (経営面積)

経営面積	水田	畑	原野	山林	計
町反	一四	九五	二	二	二七五
八反	四〇	四〇	一	一	二二〇

以上のとおりであります。特に私の地方の如く水田一作を主とする在来農業地帯では水田裏作はまた極めて大きな意味を持ちますので、その内訳を示しますと第四表のとおりで、水田は大部分半湿田のためその改良により益々収量の増加を図りたいと思っております。

第四表



つぎに畑地の高度利用であります(第五表参照)ことに私のテーマとする葉煙草栽培畑の休閑期の利用について申上ましよう。

煙草は早作になるほど良質のものができるのであつて、ピニール育苗を行い、促成と抑成の併用に依り根を充分に作り五月中

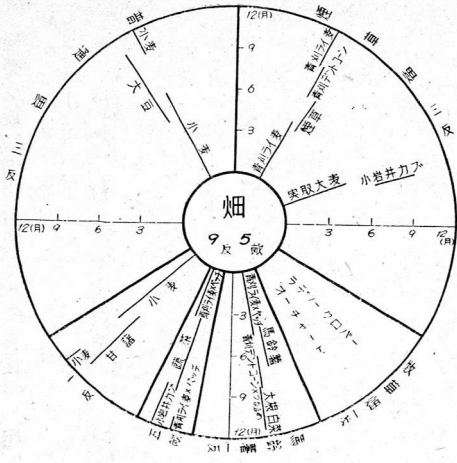
旬植付、三週間目に前作を刈取り追肥、中耕、土寄せなど一切の作業を終らねばなりません。

併し従来の実取麦の熟期(六月中旬)ではうまくないので、酪農と結びつけ実取麦と青刈ライ麦の交互作を実施しました。勿論全部を青刈してもよいと思つております。

これで反当り四二〇貫、三反歩より二二五F E、可消化蛋白二四三庇を生産することができました。また前作の青刈の実施により、煙草の適期管理が可能となり七月九日より収穫を始め八月上旬完了いたしますが、その一週間に二反歩に一畦おきに間作としてデントコーンを播種して十月上旬五〜六尺で刈取りサイレーシとしました。

また株間九寸の煙草残株採取後に、小岩井カブを播き、残りの畦間にまたデントコーンを播付いたします。その結果第六表にみるとおりの収穫をあげ得たのであります。

その他六カ月間休閑している馬鈴薯畑からも前作はライ麦の青刈、さらに間作にデントコーンを入れ八月上旬青刈後大根播種、白菜を移植するのであります。また一反歩の牧草畑からはラデノクローバー四、八〇〇貫を収穫しました。その他蔬菜残廃物、穀物加工副産物などを合計し、一、〇五二F E可消化蛋白一、〇七八庇を生産しました。そして不足な栄養分の補給に油粕七〇貫、麩四八貫麦種二四貫を購入したのみであります。



第六表の一 自給飼料生産表

Table with 10 columns: 飼料種別 (Feed Type), 面積(反) (Area), 反収(貫) (Yield), 収量(貫) (Total Yield), F, E, 可消化蛋白(瓦) (Digestible Protein). Rows include categories like 水田作田 (Water Field), 煙草畑 (Tobacco Field), 薯馬畑 (Tuber/Potato Field), 蔬菜畑 (Vegetable Field), 牧草畑 (Pasture Field), 畦畔 (Field Edge), 穀物 (Grain), 加工物 (Processed Goods), 副産物 (By-products), and 合計 (Total).

第六表の二 労力配分計画
だが併しここで申し上げなければならぬのは労働力の問題であります。第七表で見ればわかりますが、このように労力配分計画樹立前は臨時雇八四人を入れておりませんが、煙草を増反し乳牛を入れ、一見営

第七表

昭和二十九年年度 部門別労働配分状況並農業収入比較表

部門別	面積	区分	二六年度	二九年度
稲作	一四〇反	必要経費力	六、五〇〇円	三、三〇〇円
		総収量	四、三〇石	六、〇〇石
		総売上収入	三、三〇〇円	四、八〇〇円
煙草	(元年) 一六〇 (元年) 三〇	必要経費力	一、三〇〇円	一、〇〇〇円
		必要経費力	一、二〇〇円	一、七〇〇円
		必要経費力	八、九〇〇円	二、〇〇〇円
その他		必要経費力	一、六〇〇円	三、三〇〇円
一般作物		必要経費力	四、五〇〇円	三、四〇〇円
野草刈取		必要経費力	三、〇〇〇円	三、〇〇〇円
青刈飼料		必要経費力	二、〇〇〇円	七、五〇〇円
水田裏作	二〇	必要経費力	二、三〇〇円	五、六〇〇円
		必要経費力	四、四〇〇円	八、八〇〇円
		必要経費力	二、八〇〇円	五、三〇〇円
養畜		必要経費力	一、五〇〇円	一、七〇〇円
		必要経費力	一、七〇〇円	一、七〇〇円
		必要経費力	一、七〇〇円	一、七〇〇円
その他		必要経費力	一、七〇〇円	一、〇〇〇円
		必要経費力	一、七〇〇円	一、〇〇〇円
出稼		必要経費力	一、七〇〇円	一、〇〇〇円
指導及選		必要経費力	一、七〇〇円	一、〇〇〇円
収納人夫		必要経費力	一、七〇〇円	一、〇〇〇円
総計		必要経費力	一、七〇〇円	一、〇〇〇円
私家で雇		必要経費力	一、七〇〇円	一、〇〇〇円
臨時雇		必要経費力	一、七〇〇円	一、〇〇〇円
差引		必要経費力	一、七〇〇円	一、〇〇〇円

農を複雑化したように思われる今日ではかえつて一人も雇わず完全自家労働力となつたのみならず、さらに煙草の収納時期ともなればその葉選指導に、あるいは人夫頭として他に労働することが可能となつており

用と簡易水道を設置いたしました。以上のとおり従来の農業経営に煙草三反と乳牛三頭を完全に結びつけ、営農を合理化して土地を肥し、水田を裏作化し、労働力も畜力、機械力の利用によつて農業労働

ます。

これは一つには稲作を全部複条植として坪当株数を減じ画線前進植として体を楽にししかも能率化し、除草には二四Dを使用し全般において労力を四割程度省き反当所要労力は一六人となりましたが、収量は逐年増加し、昭和二十九年年度の災害にも総収量五〇石四斗(反刈三石六斗)を収穫しました。また五月中旬から六月にかけて裏作の収穫、煙草畑の管理、田植などとなる労働の山が、五月上旬に裏作を青刈りする事により緩和され、また反当一五〇人もかかるといわれる煙草もビニール育苗を行い、畜力により耕耘整地をなし、反当り一八〇疇の早作の煙草を栽培することにより労力は約半分で済んだのであります。また最も手間のかかる葉のしや調理にも昨年機械を考案し能率を高めております。

つぎに農機具を整備し二十三年に修得した畜力利用の技術を以て畑を全部畜力化し、三〜四倍の能率を上げ、牛舎を改善し、年間を通じてサイレージの給与を行ったところ青刈給与に比べ遙かに労力が省けました。また家事労働節減のため、改善かまどを作り天火利

を効率化し、経営の安定を図り日々の生活が楽しくなりつつあります。そしてまた、これが岩手の酪農の一つの形態として同志相集いて研究会を組織し乳製品工場(雪印乳業)と連絡を行い毎月定例の会合を持ち経営改善と共に各種の技術研究をも重ねて精進を続けておる次第です。以上私の酪農五ヶ年計画の内容と経過とを報告した次第でございます。この記録は岩手県西磐井郡

☆牧草の豆知識☆

スーダングラスの病害

最近暖地向集約的な青刈飼料作物として普及してきたスーダングラスに今夏各地で葉が赤褐乃至褐紫色の縞が入つて縮れ枯れる病害が発生して、その収量や家畜の嗜好を減じたことが報告されているが、これは



(左) テイフト (右) 在来種 在来種。の葉は罹病にちぢれ枯死している。

スーダングラスの葉枯病ともいふべき病害で、ヘルミントスפורウム菌 (Helminthosporium turcicum Pass.) の寄生によるものである。普通は湿潤かつ高温時に多発し、激しい時は全圃場が焼けたように褐変

老松村の篤農青年小野寺義一君が、第七回北海道酪農研究会に発表せられ高位に入賞された体験記録でございます。集約的な酪農経営を余儀なくされている東北地方における経営改善の大きな指針となることを確信し、同君の努力に敬意を表すると共に今後益々発展せられることを祈念いたします。

(編集部)

病性も相当強く、収量家畜の嗜好も良好で将来性のあるものである。写真は右が在来系で罹病、左がテイフトで同一圃場に栽培してあつたが罹病していないことを示すものである。(なかの)